

産地紀行

奈良県桜井市三輪町。万葉に歌われる三輪山と数々の古墳を散在させるこの地にも宅地造成の波は否応なく押し寄せている。だが冬の日の朝まだき、清澄な、凜と張りつめた大気は万葉の時代と変わらない。三輪の手のベソうめんはそうした朝に作られる。粘度の高い夜、良質の水、乾燥に最適な冷気、この三抽子が揃って、はじめて良質のそうめんが誕生する。いにしえの万葉人はそうめんの味を知っていただろうか。



そうめん

三輪 (奈良県)

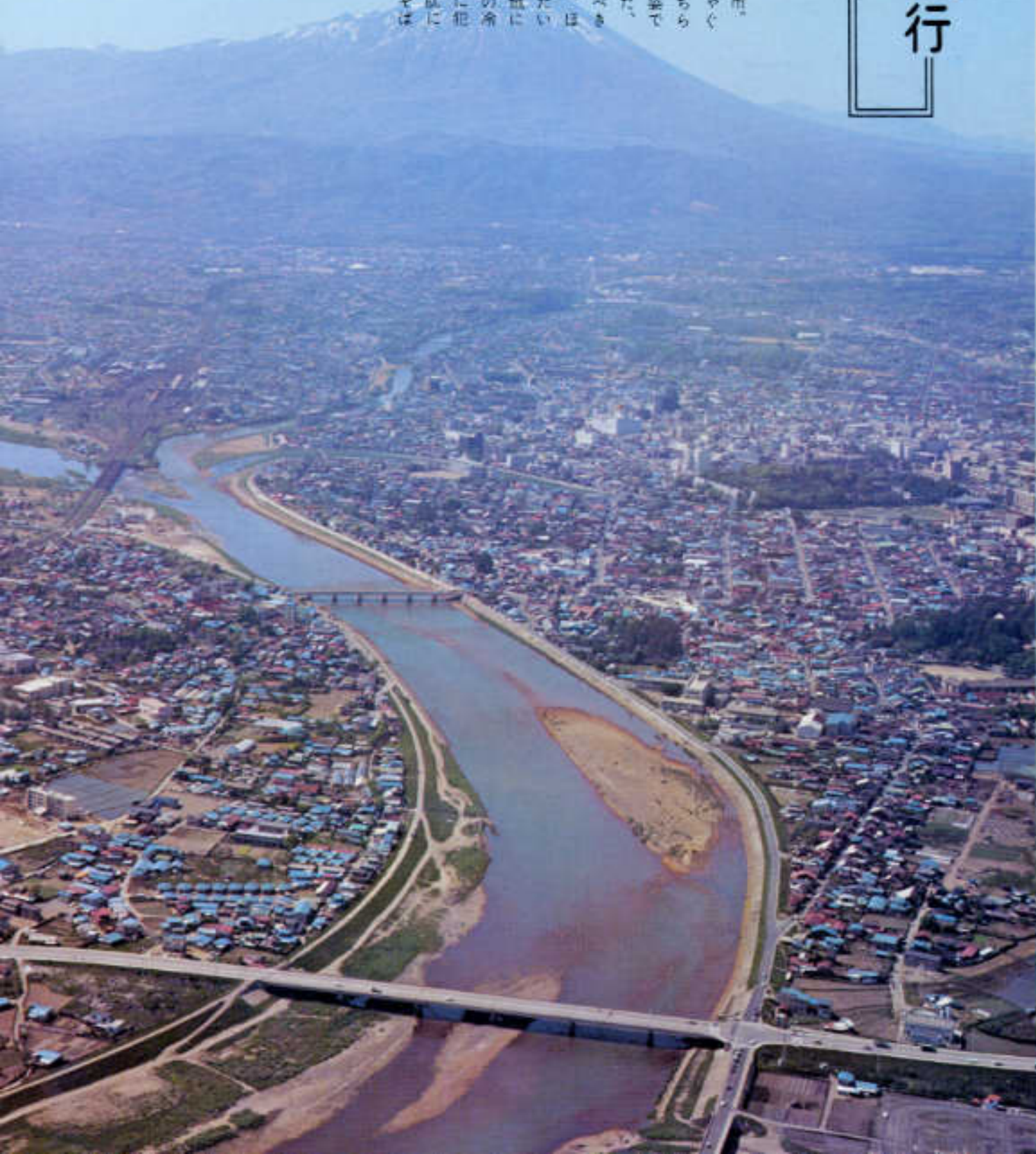
協力 / 山本太一氏・龍見 昭氏
撮影 / 荒井信夫



産地紀行

盛り上がり栄える岡——盛岡市。

この町の名物は二つある。ちやぐちやぐちとわんこそば。どちらも東北の大地の息吹きを生の姿で伝えてくれる。風土に根ざした、郷土のエッセンスとでもいうべき幸朴で豪放な名物なのである。ほんもののわんこそばを味わいたいのなら、手間暇かけてでも現世におもむくべきだ。北上川の水の余たさに身をすくめ、スモツグに犯されない水晶のような大気を肌で感じるものでなければ、わんこそばの真の魅力は解るまい。





盛岡市 (岩手県)

わんこそば

撮影 / 赤間慎三・斎藤 武
協力 / わんこそば



産地紀行

そばの産地。信州、長野県の山岳地の広い範囲にわたってそばの名産地が存在する。たとえば芦屋、藤科、相原、車輪、御岳、野辺山、美ヶ原……。水鏡谷を抱える開田高原。そして寝覚の床、片や高瀬の大バノラマと凛冽たる山気。片や緑を映して清流の上もなない水面。至情こそ遠く、まされもなく日本のそばのふるさとなのである。そばはこの風土からこそ産まれ得た。そばを愛する日本人の誰もがこの二枚の写真を心象風景として心の片隅に持っているだろうか。

信州そば

開田高原と寝覚の床（長野県）

撮影／斎藤 武
協力／越前屋



産地紀行



出雲そば

伯耆大山
出雲大社 (島根県)

俗に伯耆富士とも呼ばれる、大山の山麓に、かつて出雲そばは産出された。出雲大社と無数の古墳群を引き合々に出すまでもなく、この地は特産の国であった。そばが御子に盛られる風習も、新穀の収穫時にこの形で神帳に備えたのが今に伝わっているという。甘皮までたっぷり焼き込んだ黒いそばが御長だ。粟・米を味わいの割子そばを口に含んで、古代人の信仰生活に思いをはせるもよし。大正堂やスキーのフランを群るもよし。人をそれだけの善形哀涙を包みつつ、この地は悠久の流石を今日も守っている。